

陽気ぐらじの天理教

神様のの

懐住ま
ふといろ

「神様の懐住まい」

私たち人間は、豊かさを求めてきました。その結果、大量生産、大量消費によって、ものが溢れ、使い捨てが当たり前になり、また日々、生活する中で出るゴミも膨大なものになりました。これではいけないと、ゴミを減らす取り組みや、リサイクルの取り組み、また環境汚染を規制する法が出来るなど、様々な対策がとられています。

また、「もったいない」という言葉が取り上げられて、「ものを生かす」「ものを大切にする」ということが見直されてきています。しかしながら、なかなか理想通りには進んでいないのが現状ではないでしょうか。今さえよければ、自分さえよければ、また、これくらいはいいだろう、という風潮が、いつもどこかに存在します。いまこそ、人間は何を目指して生きるべきなのか、本当の豊かさとは何なのか、その根本が問われていると思います。

神様のお言葉に、

だん〜となに事にてもこのよふわ

神のからだやしやんしてみよ (三号四〇)

と、「この世は、神のからだ」とお教え下さっています。

地球上のあらゆるものは、親神様から、陽気ぐらしをするための「お与え」「お恵み」で、無駄にするようなものは何一つないとお教え下さいます。

一人ひとりが、自分の生活姿勢を見直し、その中で、生かされ、生きているということに気づき、謙虚に、感謝そして慎みの心で日々暮らすことを、親神様は、お望みなのです。

天理教の教祖、中山みき様は、

「物は大切にしなされや。生かして使いなされや。すべてが、神様からのお与えものやで。」

とやさしくお諭し下さいました。

自然環境も、食料や衣類はもちろんのこと、住居や家財にいたるまで、すべてが親神様からの「お与え」として、使わせていただいているのです。私たち人間は、親神様の懐に抱かれ、生かされている存在であり、すべてのものは親神様からの「お与え」であることを謙虚に受け止めることが出来れば、本当に大切なものは何かが見えてくるのではないのでしょうか。物を大切にすることを通して、親神様の御守護や親神様からのお与えに対して喜びや感謝の気持ちが湧き、また、心が真に豊かになり、慎みの心、そして人を大切にする心をも養うことが出来るのではないのでしょうか。私たちお互いは、親神様の懐住まいをしているのです。与えられた物に、感謝の心を添えていただく、使わせていただくことは、物が有り余っている現在の世の中であるからこそ大切なことではないのでしょうか。

私たち天理教は、感謝と慎みの心を大切にして、真の心の豊かさを求め、互いにたすけあう、陽気ぐらしの世界を目指しています。